令和５年度学校経営方針（概要版）

連雀学園三鷹市立南浦小学校　門野吉保

連雀学園の目指す児童・生徒像
〇学び続ける人
〇共に生きる人
〇心と体を鍛える人

学校の教育目標
〇 よく学ぶ　子ども
〇 よく遊ぶ　子ども
〇 よく働く　子ども

笑　顔
挨　拶
仲　間

学習指導要領
東京都教育施策大綱、
三鷹市教育ビジョン 2022（第２次改定）
三鷹市教育支援プラン 2022（第２次改定）

地域の子どもを、地域とともに育てる

基礎学力の定着
◇基礎的基本的な知識・技能の定着
・授業スタンダード　・ＩＣＴ活用　・学習習慣
◇思考力・判断力・表現力の育成
・個別最適化された学びの実現に向けた授業改善
・協働的な学びの実現に向けた授業
・タブレットの活用　・教科担任制
・授業スタンダード　・話し方聞き方　・ノート
◇補充的な学習
・学習支援（みな☆サポ）や地域未来塾の活用

健やかな身体
◇オリパラ教育のレガシー
・ボランティア・マインド　・障がい者理解
◇体力の向上
・持久走　・縄跳び

豊かな人間性
◇異学年交流活動や、学園内交流活動
◇読書活動の推進　図書館・読書ボランティア
◇道徳教育の充実　特別な教科「道徳」の充実
◇体験活動の充実、音楽会の充実

小中一貫教育を推進し、未来を担う子どもを育てる

いじめや不登校対策
◇４年生以上で実施する HY-QU テストの活用
◇いじめ防止と、早期発見・早期対応
◇不登校や学校不適応への対応と解消,

生活指導・安全教育
◇指導の重点「あいさつ」
◇保護者や地域等と連携した安全・安心の取組
・避難訓練　・安全マップ　・安全点検

特別支援教育の推進
◇教育支援教室「むつみ」との連携
◇教育支援コーディネータの活用
◇校内委員会の推進

小・中一貫教育の充実
◇小・中学校のカリキュラムをつなぐ
◇選択交流学習や乗り入れ授業

感染症対策
◇毎日の健康観察、手洗い、うがいの励行
◇３密（密集、密接、密閉）の回避、常時換気

自他の良さや可能性を尊重し、多様な人々と協働し、個性の伸長を図る

地域とともにある学校
◇コミュニティ・スクールの充実
◇スクール・コミュニティへの発展
◇地域学校協働本部（連雀ジョイナス）との連携
◇みなみっ子広場による居場所（学童や開放）づくり
◇学校便りとホームページによる情報発信の充実

特色ある教育活動
◇運動好きな子どもを育てる体育指導の充実
◇地域に根付いた教育活動の充実
・鼓笛隊　・みな☆サポ　・地域未来塾
◇「むつみ」「難言」との協働

学園研究
◇知的コミュニケーションを活かした学習指導
◇「国語、算数」を核とした授業改善

教員の学習指導力・生活指導力の向上
◇キャリアプランに沿った研修と自己研鑽
◇ＯＪＴによる組織的・計画的な人材育成
◇研究授業と授業参観、授業観察
◇特別支援教育と教育相談の知識・技能の習得

目指す教職員像　〇人の喜びを自分の喜びとし、人の悲しみを自分の悲しみとできる教職員
〇高い志をもち、変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ、自律的に学び続ける教職員

教職員の服務規律　◇法令遵守、服務の厳正、体罰根絶、個人情報の管理、職務専念　◇社会人としての言動、マナー、接遇

令和５年度南浦小学校　経営方針

連雀学園三鷹市立南浦小学校
校長　　門野　吉保

Ⅰ　連雀学園

１　三鷹市立小・中一貫教育校の目的

〇確かな学力、豊かな人間性を育む。
〇連続した学びの中で人間力、社会力を形成し社会における自立した一人の人間を育成する。

２　連雀学園の教育目標

地域に根ざし、たくましく現代に生き、進んで未来を創造し、社会に貢献する心身共に健康な児童・生徒を育成する。

３　連雀学園の目指す児童・生徒像

〇学び続ける人　〇共に生きる人　◎心と体を鍛える人

４　連雀学園の基本方針

小中一貫教育で、児童・生徒の個性や能力を伸ばし、人間力・社会力を育む教育の実現を目指します。

〇選択交流学習、教師の授業交流、子どもの作品交流などの交流活動を充実させ、より豊かな人間性と幅広い社会性を培う学園づくりを進めます。
〇連雀学園新小・中一貫カリキュラムや一人一台配布されたタブレットＰＣを十分に活用しながら「個別最適化」された学習と「協働的な学び」を進め、知的コミュニケーションを活かした学びを追究し「思考力・判断力・表現力等の育成」を目指し、学力・心力・体力をバランスよく伸ばす学園づくりを行います。
〇教育支援を重視し、一人一人の子どもを大切にする学園をつくります。
〇コミュニティ・スクールを基盤とした学園づくりを目指し、地域に根ざした学園をつくるとともに、スクール・コミュニティの創造に寄与します。

Ⅱ　南浦小学校の教育

１　学校の教育目標

すぐれた知性と豊かな人間性を備えた心身ともに健康な児童を育てる
ー　よく学ぶ　子ども
ー　よく遊ぶ　子ども
ー　よく働く　子ども

２　目指す学校像

教育目標の実現に向けて、人権尊重の理念に基づき、コミュニティ・スクールを推進し、「地域の子どもを、地域とともに育む学校づくり」を進める。

３　目指す子ども像

〇よく学ぶ子ども　〇よく遊ぶ子ども　〇よく働く子ども

４　育む資質・能力

〇言語能力　〇情報活用能力、情報モラル　〇問題発見・解決能力
〇多様な他者と協力する力　〇目標に向かって挑戦する力
〇心身の健康に関する力　〇豊かなスポーツライフを実現する力

５　目指す教職員像

〇人の喜びを自分の喜びとし、人の悲しみを自分の悲しみとできる教職員
〇高い志をもち、**変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ、自律的に**学び続ける教職員

Ⅲ　令和４年度の学校経営方針と具体的な方策

１　学校経営の基本方針

（１）地域の子どもを、地域とともに育てる学校づくり

○　保護者や地域の方々が学校運営に参画するコミュニティ・スクールを推進し、より自主的な活動を進めるために地域学校協働本部（連雀ジョイナス）と連携し、地域の子どもたちに求められる資質・能力を共有する社会に開かれた教育課程を重視する。

○　連雀学園コミュニティ・スクール委員会等を活性化し、地域の教育資源（人・物・情報・歴史）を活用した総合的な学習の時間における探究的な活動や課題解決型の学習など特色ある教育活動を展開する。

（２）小・中一貫教育を推進し、未来を担う子どもを育てる学校づくり

○　教職員は、子どもの義務教育９年間の学びに自覚と責任をもって教育活動を進める。

○　学園の教育目標に基づき、小学校と中学校のカリキュラムをつなぐ。

（３）自他の良さや可能性を尊重し、多様な人々と協働しながら個性の伸長を図る学校づくり

○　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための教育支援（特別支援教育）を推進し、障がいのある子どもに必要な合理的配慮の提供や基礎的な環境整備を図る。

○　特別支援教育に関する専門性を高め、障がいの程度や個々の状況に応じたきめ細やかな、質の高い教育を提供する。

２　本校の実態と中期的目標

（１）　基礎学力の定着

全国学力学習状況調査や東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査、三鷹市学力調査の結果から実態を正確に把握し、授業改善推進プランに基づいた学習指導を計画的に進める。算数の習熟度別学習については、２年生から計画に行い低学年からの学習習慣の確立も含め、基礎・基本の力の確実な定着を目指す。さらに、算数だけでなく他教科の基礎となる国語の基礎基本について定着を図る必要がある。そのために、日常の教科指導の充実とともに、個別最適化された学びの実現に向けたタブレット端末を効果的に活用したり、みな☆サポによる学習支援や地域未来塾を活用した学校２部などを充実させて確実な定着を目指す。

（２）主体的・対話的で深い学びの推進

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けるために、学力、体力、豊かな心をバランスよく育むことが重要である。学力面では、学園研究の研究主題「知的コミュニケーションを活かした学習指導の工夫」を設定し、授業改善を重ね、「思考力・判断力・表現力等の育成」に重点を置いて取り組んでいく。授業改善の一つのキーワードは「ベストミックス」である。個別最適な学びと協働的な学び、オンラインとオフライン、学校教育と家庭教育など社会が急激に変化する中では、解は一つではなく、常に児童一人一人の状況に応じて、様々な要素を組み合わせるベスト・ミックス（最適な組み合わせ）を追究し、具現化することが重要である。

（３）体力の向上

コロナ禍で低下した体力を向上させるためにも、感染症対策を徹底したうえで短なわや長なわ、持久走などに取り組み、調整力や持久力、投力の向上を目指す。学園経営方針を受け学園目標の『心と体を鍛える人』を重点とし、心身ともに健やかな子どもたちの育成に努める、特に、体育の授業における授業改善を通して、授業の質的向上を図り、運動好きな子どもの育成し、子どもたちの体力向上を目指すとともに、家庭や地域との連携をより深め「健康教育」という大きな枠組みの中で子どもたちをよりよく育てていく。

また、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、ボランティア・マインドの醸成、障がい者理解などを推進するとともに、コロナ禍における実施方法を工夫して実

際のボランティア活動やアスリートの招聘など積極的に進めていく。

（４）特別支援教育の充実

各教員が専門的知識を積極的に学び、個別最適な学習ができるよう、指導力を高めるとともに、各巡回校２校との連携を密にし、効果的な指導・対応ができるようにしていく。また通常学級におけるユニバーサルデザイン【だれにでも（ちょうどいい）（無理なく楽に）（わかりやすい）（安全・安心）】を重視した授業を進める。

通級学級教員と通常学級の担任が協働し、教育支援コーディネータを中心に、定期的に校内支援委員会を開催し、組織としての対応力を高めていく。

（５）生活指導や道徳教育、豊かな心を育む教育の充実

問題行動調査やふれあい月間の取り組みを通して、認知されたいじめについて確実な解消まで継続して対応し、解消率の向上を目指す。けがや事故を含め、養護、SC、生活指導主任、担任等組織で対応し、組織での対応力を高めていく。不登校や登校しぶり傾向の児童については、校内委員会を含め、地域の関係機関とも連携しながら、安定した登校ができるよう支援していく。また道徳科の授業を始めとする教科指導や生活指導、特別活動、学校行事などを通して自他の良さに気付かせ、自己肯定感を高める。

（６）安全・安心の確保

新型コロナウイルス感染症についての正しい知識をもち、新たな生活習慣をしっかりと確立させる。またコロナ禍ということも含めた災害対策、交通安全、不審者対策等について、常に正しい知識をもち、意識を高め、地域や保護者と協働して安全・安心な学校つくりを進める。

（７）スクール・コミュニティとして、保護者・地域との連携

連雀学園コミュニティ・スクール委員会、南浦小ＰＴＡ，南浦地区青少対・交通対、おやじの会、みなサポなど学校を支えてくださる地域の諸団体をより組織化し、協働して子どもたちを育てていくスクール・コミュニティ創造を目指す。特に、学校３部制の実現に向けて、第２部となる学童や校庭、教室、体育館開放について、民間事業者による一体的な運営を進めていく。

２　令和５年度の重点及び具体的な方策　　※【　】は学園経営方針取り組み番号

（１）　基礎学力の定着【２】

	重点及び具体的な方策
1	算数習熟度別指導を２年生から実施する。５・６年生は２学級３展開として、指導方法工夫数加配教員が指導に入る。２・３・４年生とも２学級３展開で指導方法工夫改善講師が入って実施する。
2	指導方法工夫改善計画に基づいて、東京ベーシック・ドリルを活用し４年生までに身に付ける学習内容の定着を図るとともに、４年生で年度末に定着度診断調査を実施する。
3	タブレット端末の「ｅライブラリ」を、一人ひとりの実態に応じて活用し、学習内容の定着を図る。
4	第一中学校の教員の乗り入れ指導を週３回（算数、外国語）、より効果的に実施する。
5	中・高学年での教科担任制は、国語・社会・理科・家庭・総合などを組み合わせて行う。
6	学力調査の結果から実態を正確に把握し、学習指導を計画的に進める。
7	学力定着を図るために、基礎基本の定着を図る時間を確保する。（地域未来塾の活用）
8	対象を２，３年生に絞り地域未来塾を活用した放課後学習支援を積極的に実施する。

（２） 主体的・対話的で深い学びの推進【１】

	重点及び具体的な方策
９	学力調査の結果に基づく実態から学習形態やノート指導の工夫、小グループの活動などを入れ、協働的に問題解決を進める学習を展開する。
１０	子どもたち一人ひとりの課題に応じた学習活動が展開されるよう授業改善に取り組む。ＧＩＧＡスクールマイスター及びＧＩＧＡスクール研究開発員作成の年間指導計画や動画資料などを活用して、一人一台配布されたタブレット端末を活用して、個別最適な学びと協働的な学び、学校教育と家庭教育など織り交ぜながら、児童一人一人の状況に応じた教育の実現を図る。

（３）体力の向上【１３】

	重点及び具体的な方策
１１	体力向上推進プランを基に、体育的行事委員会を中心に実践する。感染症対策を徹底した一学級一実践である長縄跳びを工夫して実施する。
１２	学園研究やミニ研修会を通して、体育学習の質的向上を図る。また、総合的な学習の時間において、食事・睡眠など健康を取り巻く課題について取り組み、健康教育を推進する。
１３	感染症対策を徹底して、長縄、体育的活動、期間を決めた短縄や持久走等をおこない、運動の日常化を一層進める。
１４	オリ・パラのレガシーであるボランティア・マインドの醸成や障がい者理解を一層進めるために、地域社会で行われるボランティア活動に進んで参加できるように地域の諸団体と連携して企画するとともに、車いす体験や障がい者施設への訪問など福祉的な学習にも取り組んでいく。

（４）特別支援教育の充実

	重点及び具体的な方策
１５	通常学級においてユニバーサルデザインの考え方を取り入れて、合理的配慮の提供や環境を整備し、児童一人ひとりにとって「わかる授業」を行う。
１６	特別支援教育担当教員が、市内外の研修等により専門性を高め、よりきめの細やかな指導ができるようにする。
１７	教育支援コーディネータ、校内通級教員、難聴言語学級担当教員を中心とした校内委員会を活用し、より効果的に通常の学級での観察や指導ができるようにする。また校内委員会を誰もが参加できる開かれた会とし、全教職員が児童の様子を把握できるようにする。

（５）生活指導や道徳教育、豊かな感性をはぐくむ教育の充実

	重点及び具体的な方策
１８	基本的な生活習慣の重点として「あいさつ」に取り組む。教師が率先して範を示し、校内外を問わず「あいさつ」のできる児童を定てる。
１９	学園全体で取り組む子ども熟議やあいさつ運動、小・中引き継ぎの会等を利用して小・中系統だった生活指導を進める。 ４年生以上の HY-QU テストや自尊感情アンケートを実施し、児童の実態を明らかにするとともに、自己肯定感や自己有用感を高める活動・指導を行う。
２０	交流班活動や連雀縦割り班活動など異学年での交流により自己有用感や所属意識を一層高める。
２１	６年間を見通した音楽・図工などの芸術教科や芸術活動を通して、豊かな感性を磨く。
２２	自然教室を充実させるとともに、各教科・領域で体験活動を取り入れ、実感のある学習活動になるよう工夫する
２３	読書週間、司書教諭との連携した教育活動、ボランティアによる読み聞かせ、中央図書館からの団体貸し出しなどを活用して、読書の楽しさを味わわせるとともに、読解力・表現力を高める。

２４	年３回のふれあい月間ではアンケート調査を行い、子どもたちの実態を把握する。また２学期には子どもとの個人面談を行い、児童理解を深める。
２５	セーフティ教室として「親子情報モラル教室」を行い、子どもと保護者・地域の方が一緒になって情報モラルについて考える機会を設定する。

（６）安全・安心の確保

	重点及び具体的な方策
２６	学校いじめ防止基本方針に基づき、担任やSC等と児童との個人面談月間や学期１回のふれあい月間でのアンケート等を活用して、児童理解を深めるとともに、いじめなどを早期発見・早期対応に努める。また、「いじめ対策員会」を開き、組織的に解決を図り、解消率の向上を目指す。
２７	防災教育を継続的に実践するとともに、緊急地震速報を活用した避難訓練や危機回避訓練を行う。
２８	連雀コミュニティセンターや防災課と協働した連雀地区防災訓練を実施する。
２９	児童の事故、病気、その他のトラブルについて速やかに学年主任、管理職に報告、相談して組織的に対応する。
３０	給食の安全・衛生確保に向けて、学期１回管理職、栄養士、給食主任、養護による打ち合わせを行う。また適宜アレルギー対応児童の共通理解を図る。
３１	毎月１回、教職員が分担して校内の施設・設備を点検し、日常的な整備に努めるとともに、異常があれば速やかに連絡する。

（７）スクール・コミュニティとして、保護者・地域との連携

	重点及び具体的な方策
３２	「南浦小学習サポートネットワーク」（みな☆サポ）により、地域や保護者によるボランティアを計画的・効果的に取り入れ、学習支援部の活動を更に充実させる。
３３	交通対や三鷹警察と連携し自転車教室など交通安全を確実に実施する。
３４	コミュニティ・スクール委員会との連携を重視し、学校経営方針や実施状況、学校評価の結果や意見聴取を行う。またＨＰ担当を確立させ、ホームページの更新、学校だよりや各種たよりの充実など学校情報を積極的に発信する。